

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172100881		
法人名	医療法人静風会		
事業所名	グループホームHIPPO		
所在地	岐阜県大垣市室村町1丁目178番地		
自己評価作成日	平成27年6月25日	評価結果市町村受理日	平成27年8月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172100881-00&amp;PrCd=21&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=ion_kouhyou_detai_2014_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2172100881-00&amp;PrCd=21&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成27年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人静風会大垣病院が母体であり、医療との連携強い。特に平成25年より 大垣病院内に 岐阜県認知症患者医療センターが設置され、認知症専門医はじめ専門スタッフよりの指導、協力体制も出来ている。利用者様、ご家族に安心して頂いている。地域の中においても 自治会、防災隊を通じ日頃から 馴染みの関係が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎晩昆布茶・ジュース等を飲みながらお茶会をして、会話が少なかった利用者も段々とお話ができるようになってきている。事業所は2階にあり、日課の散歩に行く為に階段昇降することでADLの維持につながっている。利用者個々ができる事の役割を担い、掃除・縫い物・片付け等で生きがいや楽しみとしている。クリーニング・パンク修理・食材購入も地元商店を利用し、地域との関わりを大切にしている。自治会役員会や防災会議に出席し、事業所との理解やつながりが深まり、住民からの相談にのったりしている。事業所での生活が閉じこもりにならないように、精神科デイケアとも連携し通所で気分転換を図っている。法人の託児施設が階下にあり、職員も安心して職場復帰したり、どの職員からの意見でも取り入れて、質の向上に向けて取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	HIPPO開設より11年経過、当初より現在まで地域との繋がりが深く 管理者、職員は馴染みの関係が出来ており実践されている	入り口ドアに理念を掲げ、いつでも気にかけて実践できるようにしている。日常的に介護場面で管理者や職員の考えたことなど常に、理念に基づいているか振り返り注意しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議が9年以上続いている。地域行事参加、回覧板、防災訓練、クリーニング、洋服直し等地域のお店活用等 日常的に交流している	事業所ができることを自治会に提案し、住民の相談にも応じている。双方が地域行事に出かけたり、法人行事に参加している。毎日の散歩コースの畑で住民と話したり、幼保園で幼児達の声を聞いたりして楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に認知症に関しての相談を 地域の方から受けたり している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には 毎回入居者様全員が参加直接入居者様の声を聞き サービス向上に活かしている	出席者が意見を言いやすいように、テーマを決め話し合っている。地域行事や防災訓練で住民の協力法について意見が出て取り入れている。出席できない家族に議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	権利擁護の入居者様が居られ 行政や地域包括支援職員等と密に関わり 協力関係を築く様に取り組んでいる	入居者の相談や空き情報等を行政担当者や包括支援センター職員といつでも連絡している。ケアマネジャー会議でも顔を合わせ良い関係ができています。行政職員が月1回は入居者面談に来所している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当グループホームが2階にあり転落防止の為 止むを得ず 2階出入り口を施錠している。職員全員申し訳ないと思っている。内部研修にて身体拘束の学習もし拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量の多い道路に面し2階に事業所がある為、やむなく施錠はしている。外に行こうとする利用者には階下の託児所で幼児と触れ合ったり、散歩に出て気分を変えたりしている。職員は、言葉遣いも拘束につながることを日頃から注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について 施設内研修を行い防止につとめている		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設には補助人制度や権利擁護を利用されている方々が居られる為 職員全員学び、にて活用出来る様支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約、改定等十分に説明させて頂き理解納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて入居者様、ご家族の思い、意見を拝聴他 面会時、夜のお茶会等でも入居者様の思いを知り 運営に反映させている	家族の面会時は必ず声かけし、湯茶を出し ゆっくりと意見を聞くように心がけている。来所が少ない家族には「HIPPO便り」を毎月送付し、電話で意見を聞いている。出た意見は申し送りで職員に伝え、検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に職員と意見交換し、必要時は法人へ提案、反映させている(防災準備品、食料等)	日常の業務時や申し送り時に管理者が職員から意見を聞いている。レクリエーションなど 職員の意見を取り入れるようにしている。内容により管理者が法人に修繕依頼をする場合もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は給与、賞与、介護職員処遇改善金等の他 有給、指定休日もあり、やりがいを 持って働ける様務めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、施設内研修の他 今後更に外部研修に行ける様進めて行く		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネージャにはネットワークがある、自ら他施設職員と交流している職員もいて報告をしてくれる。良い点は取り入れている		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の思い、不安、要望等を大切にお聞きし安心して生活出来る様務めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いも充分にお聞きし、良い関係作りが出来る様務めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかり取り 必要時他のサービス利用も含めた対応に務めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	協働での食事作りをはじめ 共同生活の中で暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と共にご本人を支えていく関係作りに取り組んでいる。ご家族からの感謝の便りもある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同法人の中で以前、入院、入所していた病院、施設との連携もあり支援出来ている。他、学生時代からの友人との文通や元職場の同僚、バレーボールを通じての友人等との交流等支援している	利用者の希望で電話をかけた、手紙や葉書を郵便ポストに投函する支援をしている。馴染みの喫茶店や商店に行き、飲食や買い物を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様全員がたまたま女性という事もあり、お互い助け合い補いあって生活されている。支援できている		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても必ず見舞い、必要に応じご本人、ご家族の相談に乗り 支援に努めている。再入居されたケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常にお聞きしたり、夜のゆったりしたお茶会時等を利用、一人ひとりの思いの把握に努めている。例えば役割の希望や、負担にならぬ様お聞きし配慮している。困難な方はご家族の意向や表情等から本人本位に検討している	利用者のできる事とできない事を把握し、時間がかかっても利用者が思いを言えるように問いかけを工夫している。生活歴から推測して利用者の意向を聞いたり、顔の表情や行動をしっかりと見て希望を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、馴染みの暮らし方、環境等をアセスメントし、これまでのサービス利用も把握しその人らしい暮らしが出来る様図っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の中でも高齢の方、60代の方も居られ過ごし方、心身状態、出来る事、出来ない事も含め現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、関係者、医師と意見交換して、より良く生活出来る様 課題とケアのあり方について話し合い介護計画を立てている。センター方式から書式を一部使用している	利用者・家族の意見や希望を聞き、医師の意見も参考にしてケア計画を作成している。担当者が記載した支援経過表から評価し、3ヶ月に1回担当者会議にて検討している。必要時はすぐ見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ケア担当者が介護支援経過表を書き、ケア会議等で情報共有、実践や介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況、ニーズに対し柔軟な支援、サービスの多機能化に取り組んでいる		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人ご家族の思い、ニーズに対応し精神デイを利用(3名の方)。地域資源を活用しながら今後も支援していく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の中で、医療との連携、協働常にある。適切に医療が受けられる様支援している	利用者は入居前から同法人の医師がかかりつけ医で、受診は職員が付き添っている。皮膚科や歯科等の受診に家族が付き添う時は情報を提供し、結果を聞きかかりつけ医や訪問看護師とも情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、母体の大垣病院より訪問看護来所、情報交換し適切な医療、看護が受けられる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の中で医療との協働常により、大垣市民病院、大垣徳洲会病院との信頼関係もある		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、事業所の看取りはしない方針を説明。ご本人ご家族の思い受け早い段階で医療と連携しながらチームで支援に取り組んでいる	看取りは行わない方針を利用者や家族は理解している。重度化した時は、家族・医師・訪問看護師・職員が話し合い、事業所でできることを支援している。体調や嚥下状態に合せ、食形態を工夫し口腔から摂取できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、急変や事故発生に備え初期対応の訓練等 定期的に行い身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との連携のもと全職員が災害時等入居者が避難出来る様対応を身につけている。今年は消防署署員を招き住民と共に火災避難訓練を実施した。夜間は1人体制なので常に地域住民と連携できるよう図っている	利用者・家族・民生委員・近隣住民も参加し、夜間想定や抜き打ちでの訓練もしている。歩行できない人は、シーツを使用し職員が3・4人で階下へ避難訓練をしている。水・食料・医薬品を備蓄し、防災頭巾も備えている。	

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年接遇の研修を法人絡みで実施、人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉掛け、対応に務めている	利用者に対する言葉遣いや声かけのタイミングにも気を配り、職員が互いに注意しあっている。清拭は居室で行い、排泄・入浴・着脱等は肌の露出や他の入居者の視線にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常にご本人の希望、思いを表現出来る様、自己決定出来る様図っている。(例。毎食の献立等入居者様と相談)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いに沿った、ゆったりケアを心がけ支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出も良くあり入居者様全員がお洒落であり、個々に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に献立から相談する事多い、野菜の皮むき等職員より上手である。入居者、職員協働で食事作り、あとかた付けをしている	毎日届く食材をもとに、利用者とその日の希望を聞きバランスを考え一緒に献立を決めている。弁当をとったり外食に出かけたりしている。干し柿・干し芋・ぼた餅づくり等利用者ができることを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様全員、主治医より血液検査の結果がいつも良いと褒められます。法人の管理栄養士により管理、調達され業者により毎日運ばれてくる食材を使用、摂取している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々により 口腔ケアは違うが、毎食後口腔内清潔保持に努め、肺炎予防をしている		

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツはずしに力をいれ、紙パンツから布パンツになられた方多い。ほぼ全員布パンツである。昼夜オムツの方一人おいでになるが止む無し。	排泄パターンを把握してトイレ誘導をし、職員で話し合い、オムツからパッド・布パンツとなるように自立に向けた支援をしている。夜間でもトイレ誘導する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に便通の良い食材を日常的に使用、(イモ類、ヨーグルト等)。主治医と相談し必要な方には、ラキソベロン使用し予防、対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴好きの方多い、1日置きに入浴、午前浴施行している。現在夜間入浴の希望者なし(テレビ、夜のお茶会参加の為)	入浴は利用者と職員は、ゆったりと過ごす時間と考え、話を聞いたり歌を歌ったりして楽しんでいる。茶殻を利用した湯や季節で菖蒲・ゆず・みかん皮等を入れ、入浴に変化をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜9時就床となっているがテレビ観賞の為時間が若干遅くなっても可。夕食後は、8時よりお茶を飲んでゆっくり話しをしたり、テレビ観賞して過ごしてから休まれるので夜間良眠である		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬に関して理解できている。精神薬服用の方も居られ 必要時主治医へ報告。服薬支援と症状の変化、確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々に、役割、嗜好品、楽しみ事に応じ支援している。外出、ドライブによる気分転換も図り喜ばれている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に、個々の希望に応じ散歩、ドライブ、買い物、外食等支援に努めている。ご家族と相談し去年クリスマスに息子様と2人だけで、電飾を見にドライブされた方もいる。ご家族のおいでにならない方には職員と夜の外出もありました	予め危険な場所や道路を避け安全なコースを定めて、事業所の近隣をいつも散歩している。利用者の希望で買物・喫茶店・カラオケ・外食等にも出かけている。タクシーを利用したり、事業所の車にて外出時は、ボランティアが協力する時もある。	

グループホーム HIPPO

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	適時、外食時、買い物時等支払いをして頂いている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に電話、手紙のやり取り等支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日適時 全室窓を全開放し、感染、悪臭予防に努めている。廊下には入居者様の作品、写真展示もあり居心地良く、生活感、季節感にも配慮している。裁縫の得意な入居者様多く、トイレ、台所等のカーテンも皆様の手作りです	廊下や食堂に季節の花を活け、壁面に利用者の作品や写真を掲げている。予定を書いたカードが差し込めるように手作りのカレンダーで、行事や会話への糸口になっている。食堂で歌を歌ったり、盆踊りの練習をしたり、ラジオ体操をしたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い共用空間ですが2~3人掛けのソファあり、そこで音楽を聴いたり横になる方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談し居心地良く過ごせるよう図っている。ご自身の編み物等作品を展示したり 反面何も置かない方も居られるが家族写真は貼っている	TV・タンス・イス等の使い慣れた物を利用者の好みで置き、作品や家族写真を飾っている。その人に合わせて手作りの体位変換用のマットや物入れの箱にカバーをかけ居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当グループホームは2階にあり、エレベーターが無い。外出時は職員見守り、介助にて手すりを握り昇降するのりハビリティもなっている。廊下に手すりない分職員が駆けつけつけている。トイレ上に鈴をつけ、聞いた職員が即駆けつけつけている		